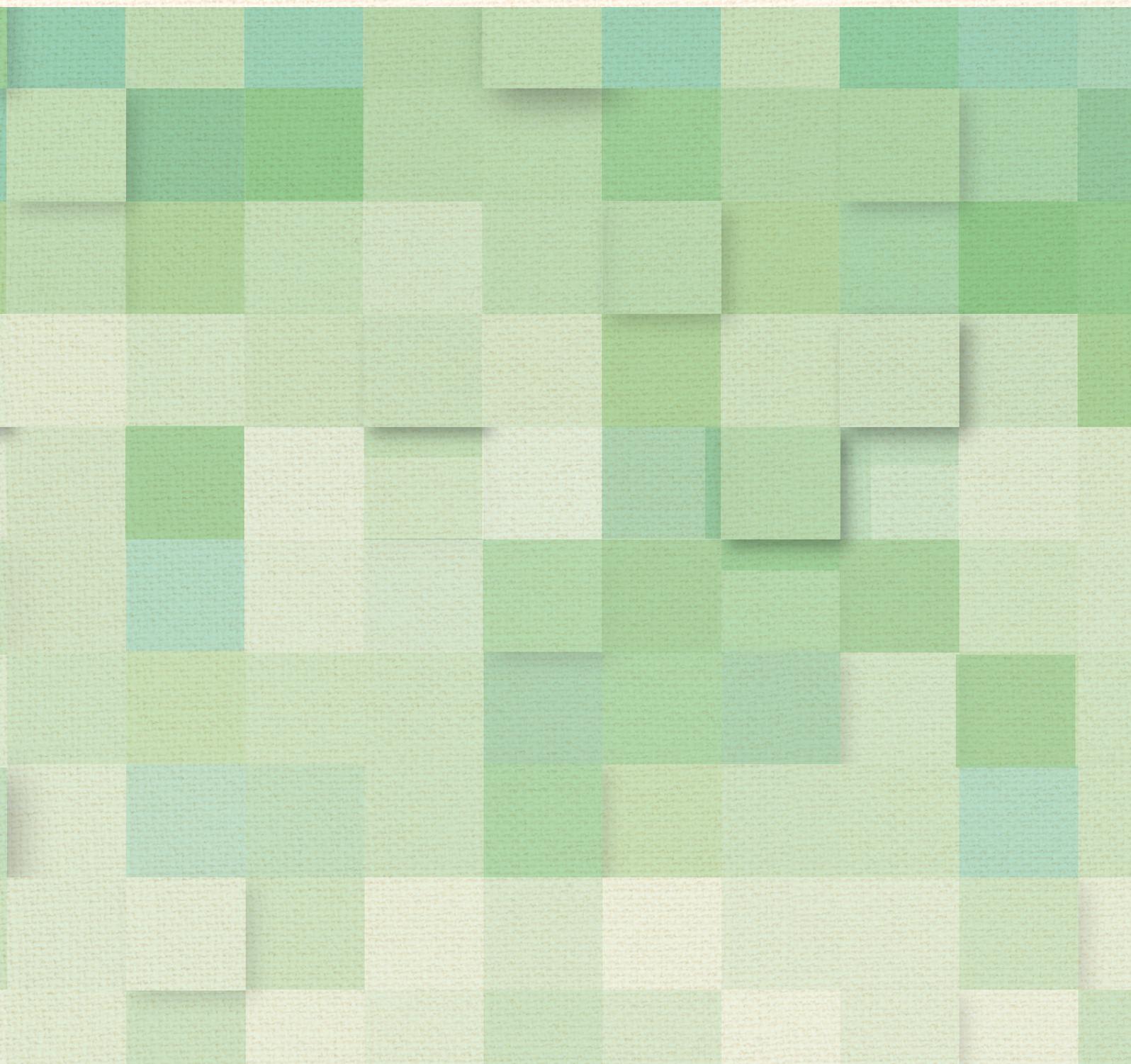




筑波大学 社会貢献プロジェクト

2023-24



筑波大学社会貢献プロジェクト 2023-24

社会貢献プロジェクトとは

社会貢献プロジェクトは、筑波大学と社会との多様な形での連携活動を学内公募し、総合的に支援するもので、平成 16 年度にスタートしました。平成 21 年度からは教員だけでなく学生も申請できるものとなっております。

本プロジェクトは、特定の分野に限定することなく、地域との連携活動を自由に提案することを特徴としており、「科学振興」、「国際」、「文化・地域活性化」、「環境」、「健康・医療・福祉」等、内容は多岐に亘っています。本学ならではの取り組みをぜひご覧ください。

〈筑波大学社会貢献・地域連携 HP〉
<https://scpj.tsukuba.ac.jp/>

筑波大学社会貢献プロジェクト 2023-24

科学振興

- 筑波大学発 おもしろふしぎ理科実験・工作隊…………… 4
数理物質系 准教授 小林 正 美
- 先端研究を生かした地域社会貢献型理科教育啓発活動…………… 6
数理物質系 准教授 後藤 博 正
- 高齢者コミュニティで築く産学・社会連携プロジェクト
「生活の中のデザイン」コンテストの開催…………… 7
人間系 教授 原田 悦 子

国 際

- サッカーボールでつなげる TSUKUBA コミュニティ…………… 8
体育スポーツ局 係長 北條 英 次
- 筑波大学発 SDGs 活動発信拠点形成とつくば SDGs パートナーズの育成…………… 8
生命環境系 教授 田村 憲 司

文化・地域活性化

- つくさか 食農体験活動支援プロジェクト…………… 9
附属坂戸高等学校 副校長 深澤 孝 之
- アート× SDGs で子どもたちをいきいき
―「夏休みアート・デイキャンプ&アートマルシェ 2023」の実施―…………… 10
芸術系 助教 吉田 奈穂子
- つなげる外国人家族と地域社会 v.3 ―日本の保育園へようこそ…………… 11
人文社会系 准教授 井出 里咲子
- つくば市における外国人児童生徒支援体制の構築…………… 12
人文社会系 准教授 澤田 浩 子
- 地域子どもへ図工教育支援活動「ずこうやさん」…………… 13
芸術系 准教授 ジョン ヨンギョン
- 博学連携による地域文化財の再生と利活用
―土浦市における重要遺跡の調査とパブリック・アーケオロジーの展開―…………… 14
人文社会系 教授 滝沢 誠
- 文京ラグビースクール活動支援 ～小学生へのラグビー普及活動の一環として～…………… 15
附属高等学校 教諭 山田 研 也
- 第13回つくばリサイタルシリーズ…………… 16
人文・文化学群人文学類 畑 なつみ

環 境

- 「いもりの里」をモデル拠点とした谷津田・里山の復元・維持管理ネットワークの継続的发展 2023 17
生命環境系 助教 丸尾文昭

健康・医療・福祉

- 『難病とたたかう子どもたちに自然体験を！ 2023』～新感覚のオンライン院内学級の導入～…… 18
医学医療系 講師 松原宗明
- 『つくばキッズメディカルユニバーシティ 2023』～少年期の子ども対象の医療現場体験ツアー～…… 20
附属病院 看護師 岩見幸枝
- 不登校児のための地域連携型支援事業「ココ・カラ基地」プロジェクト…… 22
体育系 准教授 澤江幸則
- 発達・精神・身体障害のある高校生に対する大学進学サポートプログラム…… 23
人間系 准教授 佐々木銀河
- 救急隊を対象とした新たな病院前周産期救急教育の推進…… 24
医学医療系 准教授 宮園弥生
- 糖尿病の口腔管理についての情報発信を目的とした教育啓発活動…… 25
医学医療系 助教 工藤理恵
- 女性若年性認知症への支援体制の構築…… 25
医学医療系 講師 石井亜紀子

防災・震災復興

- Tsukuba for 3.11 …… 26
医学群医療科学類 青木芽生
- 放射線災害時に対応できるマルチタレントの育成…… 27
医学医療系 教授 磯辺智範

その他

- 視覚障害乳幼児とその保護者を対象とするオンライン教育相談体制の構築…… 28
附属視覚特別支援学校 教諭 高橋里子

※所属、職名は令和5年5月現在のものです。

筑波大学発—おもしろふしぎ理科実験・工作隊—

【活動地域：茨城県全域、千葉県】

数理物質系 准教授 小林 正美

1 事業の概要

月数回、小・中・高校生を対象とする理科の実験・工作の演示・指導を行うことで、児童・生徒の理科に対する能力を開拓することを目的とする。加えて、生涯学習の観点から、一般の方を対象としたテーマも扱う。地域の自治体等と連携することで、できるだけ広範な社会貢献を目指す。

2 事業成果の概要

茨城県と千葉県を中心として、主に小・中学校生徒を対象とした出前科学レクチャーを多数行うことが出来た。さらに、一般の方を対象とする企画(例えば、科学技術週間やあびこ市民活動ステーションなど)も、地方自治体との連携のもと、有意義に行うことが出来た。

3 地方自治体等との連携

茨城県 つくば市教育委員会
 大子町教育委員会
 県北生涯学習センター
 県南生涯学習センター
 霞ヶ浦環境科学センター
 玉里学園義務教育学校
 水戸平成学園高等学校

千葉県 我孫子市教育委員会
 あびこ市民活動ステーション
 アビコけやきプラザ
 我孫子市アビスタ
 我孫子地区公民館
 我孫子市近隣センターこもれび
 日本大学習志野高等学校

4 今後の展望

より広範な地域・年齢層に対して、生涯学習の観点から社会貢献していきたい。



令和5年度社会貢献プロジェクト

筑波大学発 -おもしろふしぎ理科実験・工作隊-

小林 正美 (物質工学域・准教授)

背景と目的

月数回、小・中・高校生を対象とする理科の実験・工作の演示・指導を行うことで、児童・生徒の理科に対する能力を開拓することを目的とする。加えて、生涯学習の観点から、一般の方を対象としたテーマも扱う。地域の自治体等と連携することで、できるだけ広範な社会貢献を目指す。

成果

茨城県と千葉県を中心として、主に小・中学校生を対象とした出前科学レクチャーを多数行うことが出来た。それに加え、一般の方を対象とする企画（例：科学技術週間、霞ヶ浦環境科学センターや あびこ市民活動ステーションなど）も、地方自治体との連携のもと、有意義に行うことが出来た。

出前講義写真

令和5年度 出前講義一覧

- 4/15 (土) 日本大学習志野高等学校
- 4/22 (土) 科学技術週間
- 5/20 (土) あびこ市民活動ステーション (けやきプラザ)
- 6/23 (金) 附属高校
- 7/8 (土) アビコなんでも学び隊 (我孫子地区公民館)
- 7/30 (日) 水戸町教育委員会
- 8/18 (金) あびこ市民活動ステーション (けやきプラザ)
- 8/26 (土) 我孫子市近隣センターこもれび
- 8/27 (日) 霞ヶ浦環境科学センター
- 10/15(日) あびこ子供まつり (アビスタ)
- 11/15(水) 玉里学園義務教育学校
- 12/7 (木) 水戸平成学園高等学校
- 12/8 (木) 附属駒場高校
- 12/26(火) あびこ市民活動ステーション (けやきプラザ)
- 2/7 (水) 附属駒場中学校
- 3/28 (木) スプリングスクール
- 3/29 (金) あびこシティア



今後の展望

今後も、より広範な地域・年齢層に対して、生涯学習の観点から社会貢献していきたい。

先端研究を生かした地域社会貢献型理科教育啓発活動

【活動地域：茨城県つくば市】

数理物質系 准教授 後藤 博正

1 事業の概要

ラジオ工作や静電気センサーの製作、タマムシ液晶の製作、リン光スライムの作成、送電実験、箔検電器の作成の実験など色々な基礎実験とデモンストレーション実験を通し、茨城県内の小中高生への理科室啓発活動を行う。

2 事業成果の概要

筑波大学科学技術週間 2023 において、タマムシ液晶の作成を来場者の子供たちに一人ひとり実演・指導した。またテスラコイルによる送電実験のデモンストレーションでは、安全に十分に留意しながら遠方よりスイッチを押し、プラズマの放電を行なった。スイッチを押してくれた人には、ご褒美に金メダルをプレゼントした。つくば理科学シンポジウムでは科学研究のポスターセッションを行った。8月には茨城県教育庁学校教育部の科学体験実習（ポリマーの合成実験）を当研究室で行なった。また筑波大学創基 151 年開学 50 周年イベントに協力した。さらに筑波大学 SKIP で 2023.12 に筑波大学総研 B 棟において面白体験実験に協力した。2024.3.29 につくば国際会議場で行われたサイエンスエッジ 2024 でワークショップを行った。



高校生ラジオ製作



土浦第一高等学校：色々な科学実験。ムシメガネのような偏光板作成(右)とミノムシクリップ・ワニロクリップ(左)。

3 地方自治体等との連携

茨城県立土浦第一高等学校、茨城県立竹園高等学校、つくば市教育庁との連携を行った。

4 今後の展望

つくばエキスポセンター、茨城県内各高校、つくば市内の中学校、茨城県教育庁学校教育部、つくば市教育局とこれからも連携を深め活動を行っていききたい。新しい教材やプログラムの開発を工夫して行っていききたい。



高齢者コミュニティで築く産学・社会連携プロジェクト 「生活の中のデザイン」コンテストの開催

【活動地域：茨城県つくば市他 県南地域】

人間系 教授 原田 悦子

1 事業の概要

みんなの使いやすさラボ（みんなラボ）は、2011年開設以降、「モノの使いやすさ」を研究対象とした社会貢献活動を行ってきた。具体的には茨城県南地域在住の高齢者に「みんなラボ会員」としてボランティア登録をしていただき、登録会員にモノに関する検証実験や研究、討論会などへ参加してもらう活動を継続的に実施してきた。こうしたみんなラボの活動・成果を一般社会へ広く発信していくため、高齢者のボランティア編集委員を中心に広報紙を発行しているが、特に本年はそこで「生活の中のデザイン」コンテストを実施した。広く会員に「生活の中の良いデザイン・悪いデザイン」に関する情報収集を呼びかけ、収集された情報をコンテスト形式で共有し、議論の場を持つことによって、個々の会員による「使いやすさ研究活動」を促進していく活動を行った。



図1 完成した四季報第24号の
デザインコンテスト結果発表ページ

デザイン情報について、広報の会のメンバーで複数回の協議を行った。その結果、厳選された7つのデザインをみんなラボ四季報の特集号としてまとめ、みんなラボ四季報24号を発行した（図1）。公刊した四季報は紙媒体としての配布の他、みんなラボHPにてダウンロードもできるように公開している。

2 事業成果の概要

みんなラボ四季報は、みんなラボ会員の中からボランティアとして手を挙げた「みんなラボ広報の会」（2024年3月時点で6名）のメンバーによって編纂されている。広報の会のメンバーは、みんなラボ事務局と協力し、みんなラボの活動の取材、記事の執筆・推敲・校正・印刷などの編集活動を行っている。2014年の創刊号から2024年4月発行の最新号（24号）まで、みんなラボの研究活動や会員による地域貢献活動などについて発信している。

2023年度は、通常の広報紙・誌面作りに加えて、「生活の中のデザイン」コンテスト実施のための活動を行った。まず、広報の会のメンバーで、デザイン応募フォーマットの作成や広報活動の方針の決定などを行い、2023年6月に全ての人にみんなラボ会員に向けてデザインコンテストの開催・応募案内が配布された（2023年8月末応募メ切）。その結果、みんなラボ会員内外から計41件の応募があり、そのすべての応募

3 地方自治体等との連携

印刷された「みんなラボ四季報」は、つくば市だけでなく、牛久市・阿見町の市役所・町役場及び関係部署にて配布されており、また、つくば市・牛久市の社会福祉協議会やシルバー人材センター、生涯学習センターなどでも配布されている。みんなラボ活動の情報提供を通して、地域の高齢者の学習意欲の向上やコミュニティの活性化などに貢献することを目指しており、読者から手紙が届くなどの反響もある。

4 今後の展望

今後も年2回の四季報の発行を目指し、今回紹介しきれなかった「生活の中の良いデザイン・悪いデザイン」情報についても継続的に広く発信し、会員による「使いやすさ研究活動」を促進していきたいと考えている。また、現在、新たな執筆メンバーも募集中であり、活動の幅を広げていくことを目指している。

サッカーボールでつなげる TSUKUBA コミュニティ

【活動地域：茨城県つくば市】

体育スポーツ局 係長 北條 英次

1 事業の概要

つくば市では、留学生を含む外国人住民の増加に伴い、外国人の社会的孤立や孤独が課題となっています。この問題に対処するため、地域コミュニティとの結びつきを強化する取り組みとして、外国人住民と地元住民が気軽に交流しやすい場を提供し、異なる文化やバックグラウンドを共有する機会を設けることを目的としたサッカー交流イベントを開催します。

イベントにおいては、T-ACT プロジェクトで募集した留学生が中心となり、自らの視点や経験を通じて



つくばワールドフットサル2023の様子

地域社会に参加し、課題に立ち向かう貴重な機会を得ています。イベント参加者同士が交流し、新たなつながりを作り上げ

ることで、社会的孤立や孤独感を軽減する一助とします。

2 事業成果の概要

2023年9月16日(土)、つくば市のセキショウチャレンジスタジアムにて「つくばワールドフットサル2023」と題した異文化交流フットサル大会を開催いたしました。南アジア、台湾、アラブチームを含む国際色豊かな8つのチームから、総勢59名の選手が競技に参加しました。

大会の運営には、T-ACT プロジェクトで募集した留学生と日本人学生が積極的にサポートし、円滑な進行を実現しました。選手たちは白熱しながらも和気あいあいとした雰囲気でフットサルを楽しみました。

この大会の成功には、つくばFC様からの協力が不可欠でした。またイベント告知に尽力いただいたつくば市国際都市推進課様にも多大な感謝を申し上げます。

筑波大学発 SDGs 活動発信拠点形成とつくば SDGs パートナーズの育成

【活動地域：茨城県つくば市】

生命環境系 教授 田村 憲司

1 事業の概要

SDGs が掲げる目標やターゲットに関する授業や地域が抱える課題の現地視察などを行う講座を提供することで、持続可能な地域を構築するためのリーダーとしての役割を担う人材の育成を進める。本プロジェクトは、地域での SDGs の普及や市民主導による持続可能なまちづくりを先導する役割などを担う市民をつくば市と連携して育成するものである。

2 事業成果の概要

本講座はオンラインによりライブ動画配信にて開催し、多くの市民が受講した。具体的には、以下のとおり実施した。

令和5年度第1回 令和5年7月12日(水)

「障害者の社会参加・自立支援」講師：中尾清隆氏

令和5年度第2回 令和5年9月30日(土)

「気候変動による異常気象と私たちの防災対策」講師：佐々木恭子氏

令和5年度第3回 令和5年11月18日(土)

「筑波山地域ジオパークを通じた持続可能な地域づくり」講師：小野哲矢氏

令和5年度第4回 令和6年3月1日(金)

「つくばの生き物の多様性を知ろう！～生物多様性を未来につなげるために～」講師：上條隆志氏



令和5年度第4回 令和6年3月1日(金)

つくさか 食農体験活動支援プロジェクト

【活動地域：埼玉県坂戸市と近隣市町】

附属坂戸高等学校 副校長 深澤 孝之

1 事業の概要

本プロジェクトは、坂戸市内外の小中学校などを対象に、農業や食に関する様々な体験活動を支援する事業である。実施にあたっては本校高校生との協働学習機会を積極的に導入し、より効果的な協働学習機会の創出に努めている。

2 事業成果の概要

令和5年度の事業ではコロナ禍の影響もほぼ無くなり、内外で多くの活動機会を得ることができた。小中学校を対象とする事業に加えて、幼保入園前の未就学児やその特別支援関連の協力要請も寄せられ、これらの機関団体へも積極的に対応した。



未就学児の農場体験【ブタへの給餌体験】

秋以降の活動では、恒例となった市内中学校各校の特別支援学級との協働学習も実施した。本校生徒と秋冬野菜栽培に取り組み、それぞれの学校において収穫物の販売学習にまで発展させることができた。



特別支援学級との協働学習【収穫作業】

また、やはり恒例となっている小学生への秋冬野菜栽培出前指導も再開2年目を迎え、収穫物の給食利用と高校生との会食へと、その成果の充実が図られた。



小学校菜園での高校生出前指導【事前学習】

学校給食への支援では通常の食材提供に加えて、本校朝採りトウモロコシの調理前調整体験や、学校内への食材実物展示などを行うことができた。



給食食材調整体験【トウモロコシの皮むき】



給食食材の昇降口展示
【当日使用のカリフラワとブロッコリー】

3 地方自治体等との連携

坂戸市学校教育課、教育委員会と連携を図りながらプロジェクトを進めている。本プロジェクトの助言で各校への資材調達予算が堅持されてる。

アート×SDGsで子どもたちをいきいき —「夏休みアート・デイキャンプ&アートマルシェ 2023」の実施—

【活動地域：茨城県つくば市、全国】

芸術系 助教 吉田 奈穂子

1 事業の概要

本事業は、「夏休みアート・マルシェ2023」において、多様なアート活動を提供することにより、「参加する子どもたちのこころの支援」、「地域活性化」、そして「本イベントに関わる子ども、保護者、学生、教員ほか全ての参加者に対する人材育成」を目的とする、アートを通じた社会貢献活動である。

2 事業成果の概要

2023年7月29、30日に「夏休みアート・マルシェ2023」を筑波大学体育芸術エリアにおいて開催し、8月22から27日までつくば美術館において作品を展示した。また、今回は創基151年筑波大学50周年記念として実施した。



ポスター（デザイン：則座初音）

本イベントは表現部門と鑑賞部門からなる。表現部門では、モチーフを見ながら絵を描く「アート・デイキャンプ」（担当：諏訪智美）、石膏でメダルをつくる「アートメダル」（担当：宮坂慎司）、そして古くなったボールに絵を描く「リボンアートボール」（担当：太田圭）の3つの企画が行われた。鑑賞部門では芸術支援領域の学生を中心に「アートたんけん隊」（担当：吉田奈穂子）が企画され、大学生の作品や制作部屋を見てまわるツアーが組まれた。

本活動の成果は、普段の学校の図画工作科や美術科の授業とは異なるさまざまな専門性の高いワークショップを通して、持続可能な開発目標（特に4、10、12）の達成に寄与することができた点である。さらに本イベントは学生にとって、幼児から大人までさまざまな年齢層の人々とかかわる貴重な場となった。



当日の様子（左：アート・デイキャンプ、右：アートメダル）

イベント終了後、市外の子どもたちも参加できるように、各家庭で描いた作品も募集した。それら全ての作品は、つくば美術館に展示し、「夏休みアート・マルシェ2023作品展」を開催した。夏休み中のため、多くの家族連れで賑わった。

3 地方自治体等との連携

本プロジェクトは、（公財）つくば文化振興財団とつくば市の協力体制の下で実施した。つくば市文化芸術推進基本計画の活動としても施策されている。

作品展の初日に行われた表彰式には審査員や受賞者に加え、五十嵐立青氏（つくば市長）も参加した。

4 今後の展望

今回も応募開始数日で定員に達したことから、本イベントの認知度と保護者の関心の高さが分かる。この活動に参加した児童生徒が将来、本学を受験するきっかけになっている一面もあるため、地域と大学をつなぐ社会貢献活動として今後も活動を継続したい。今年度は初めて「アートメダル」部門を実施した。来年も他領域の連携によって活動を充実させたい。

5 その他

・（公財）筑波文化振興財団 HP「夏休みアート・デイキャンプ2023」

【<https://www.tcf.or.jp/exhibition/021250/>】

つなげる外国人家族と地域社会 v.3 ー日本の保育園へようこそ

【活動地域：茨城県つくば市】

人文社会系 准教授 井出 里咲子

1 事業の概要

本事業はつくば市に滞在する外国籍の家族について、受け入れ地域社会の入口のひとつである保育園でのコミュニケーションと相互理解を促進する、日本語によるかかわり合いの仕掛けづくりを目指すものである。事業達成のために筑波大学人文社会系の大学院および国際総合学類の学類生を母体としたプロジェクトチーム（7名）とともに活動を行った。

2 事業成果の概要

本年度は、日本語・日本文化学類の澤田浩子研究室、教育学類の徳永智子研究室と共同で、多文化共生をテーマに研究を行う学生と共にワークショップを2回（7月、3月）開催した。3月にグローバルヴィレッジで実施された2回目のセミナー（「第4回 en nichī セミナー：多文化共生を考える」）では日英翻訳家の隅田詩織氏と日本国際協力センター（JICE）の江原真実氏をゲストに迎えトークセッションを実施、その後グループごとに対話の場を設けた。



第2回セミナー（3月16日）で語り合う参加者

3 地方自治体等との連携

6月につくば市国際都市推進課にてヒアリングを実施し、その結果、過去2年のフィールドワークから作成されたコミュニケーションツールをつくば市内の公立、私立保育所、認可こども園（合計100件）に発送することを決定し、3月に実施をした。



作成したコミュニケーションツール

4 今後の展望

今後は送付したコミュニケーションツールが、外国籍の保護者と保育園スタッフのコミュニケーション促進と相互理解にいかに関与するかについて、継続的なフィールドワークから聞き取りを進める予定である。



第2回多文化共生セミナーのポスター

つくば市における外国人児童生徒支援体制の構築

【活動地域：茨城県つくば市】

人文社会系 准教授 澤田 浩子

1 事業の概要

近年急増しつつある、外国にルーツのある子どもたちをめぐる教育課題について、大学の教育リソースを活かし、小中学校、高等学校等の教育現場や、地域・自治体と連携しながら、ともに課題を解決していく体制づくりを目指す。

2 事業成果の概要

2023年度は茨城県内の17市町村28の小中学校・高等学校に、大学生による日本語サポーターを派遣し、対面またはオンラインで日本語学習支援活動を実施した。8月には結城第一高等学校で6日間のサマースクールを実施したのに合わせ、結城商工会議所との協力で街の歴史を知るフィールドワークを企画した。また、例年継続して開催しているワンデイキャンプでは、今年度は筑波実験植物園と連携して実施し、中学生19名、大学生16名が参加するなど、大学生と地域の外国ルーツの中高生との協働学習を実践してきた。そのほか、学内で多文化共生に関する研究・社会活動を行っている学生・院生・教員による交流の場「en nichi」によるセミナーの開催や、小美玉市国際交流協会との交流会など、学内外のネットワークづくりに貢献した。

3 地方自治体等との連携

上記の活動は、茨城県教育委員会、各市町村教育委員会、小中高等学校、各市町村の国際交流協会等との連携により実施している。

4 今後の展望

今後も自治体や学校、民間団体との連携の中で、学生による主体的な活動を促進することで、外国ルーツの子どもたちの教育課題について、将来にわたって自治体や行政と協力しながら地域社会を支えていくことのできる人材育成に貢献していきたいと考えている。



留学生によるロールモデルトーク
(2023年6月21日 稲敷市立江戸崎中学校)



結城第一高等学校サマースクール
(2023年8月8日 結城市 酒蔵「武勇」)



ワンデイキャンプ
(2023年11月26日 筑波実験植物園)



小美玉市国際交流協会との交流会
(2024年2月5日 筑波大学グローバルヴィレッジ)

地域子どもへ図工教育支援活動「ずこうやさん」

【活動地域：茨城県つくば市】

芸術系 准教授 ジョン ヨンギョン

1 事業の概要

大学受験対策としての側面をもつ日本の教育課程において、受験科目でない図画工作・美術は、必要のないものとして扱われる傾向にある。しかし、これらは現代社会を生きる我々にとって必要不可欠な創造性や思考力、感性を育む重要な教科である。本プロジェクトでは、小学生対象の造形ワークショップを企画運営することで、子どもたちが図画工作本来の手を動かすことの楽しさや、自己表現をして個性を認めってもらう楽しさを実感し、造形活動や芸術との距離を縮めることで、それらに対する抵抗感や苦手意識を和らげることを目指す。

2 事業成果の概要

芸術で開講している「創造的復興」関連授業受講生からチームを2つに分けてそれぞれ異なる場所でワークショップを実施した。

吾妻西児童館を中心としたチームは、1回開催に2部構成で計32名が参加し、もう1チームは、つくば市役所こども育成課から依頼された市内の交流広場と児童クラブにて1回開催につき30人程度を受け入れた。両チーム各6回開催、延べ人数約370人の児童が参加して、手順を教えてくれる大学生から自分の意見を尊重される環境で、自由に制作を楽しむことができた。制作後のチェキ撮影も楽しみの一つで、次回も必ず参加したいとの声を多く聞くことができた。



博学連携による地域文化財の再生と活用 —土浦市における重要遺跡の調査とパブリック・アーケオロジーの展開—

【活動地域：茨城県土浦市】

人文社会系 教授 滝沢 誠

1 事業の概要

地域の文化財は、地域に根差した多様な歴史や文化を知る上でかけがえのない存在である。本プロジェクトでは、土浦市教育委員会と連携しながら市内の重要遺跡を調査し、その成果を市民にわかり易く伝えることを目的として事業を展開した。

2 事業成果の概要

事業の目的に沿って、(1) 市指定史跡・常名天神山古墳（土浦市常名町）の測量・発掘調査、(2) 市民向け現地説明会を実施するとともに、これまでの合同調査の成果にもとづいて土浦市が主催した(3) 企画展並びに市民向けシンポジウムに協力した。

(1) では、常名天神山古墳の実態を知る上での貴重な成果が得られ、その成果をもとに(2) 現地説明会（12月17日）を開催した【写真1】。また、調査中には、代表者が担当する授業（考古学概説、考古学特講）を現地からオンラインで実施した。(3) については、10月14日～12月4日に土浦市上高貝塚歴史の広場（考古資料館）で開催された企画展「霞ヶ浦に臨む王一古墳時代前期の地域社会—」に大学所蔵品

を貸し出すなどの協力を行った。また、11月23日に開催されたシンポジウム「霞ヶ浦の前期古墳と地域社会の成り立ち」（土浦市民会館）では、代表者がコーディネーター並びに基調講演を務め、市内外から約160名の参加者を得た【写真2】。

3 地方自治体等との連携

本プロジェクトに対応するかたちで、土浦市教育委員会では「筑波大学合同学術調査事業」として予算措置を行っており、すべての事業は同教育委員会と連携しながら実施している。本年度は、測量・発掘調査や現地説明会の実施において連携を図るとともに、土浦市が主催した企画展並びにシンポジウムに協力した。

4 今後の展望

本プロジェクトは土浦市当局において高く評価されており、次年度も合同学術調査事業を継続しながら、社会貢献を目的とした市民向け現地説明会等を実施する予定である。また、それに関連して、オンラインによる現地からの説明会や授業の実施、説明動画の作成などを計画している。



写真1 常名天神山古墳発掘調査の現地説明会

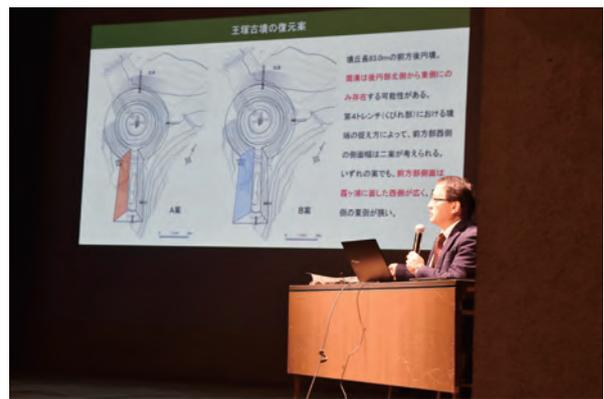


写真2 シンポジウム（基調講演）の様子

京ラグビースクール活動支援 ～小学生へのラグビー普及活動の一環として～

【活動地域：東京都文京区】

附属高等学校 教諭 山田 研也

1 事業の概要

文京区周辺の小中学生を対象に、2013年4月より開校した「文京ラグビースクール」の活動を、本学ラグビー部、附属高校ラグビー部およびそのOB会により支援する。東京都内でのグラウンド確保が難しい中、文京区内に広大な敷地を有する附属学校のグラウンド及び日本選手権準優勝の実績を誇る本学ラグビー部の人材を有効に活用し、この地区におけるラグビーの普及に貢献することを目的とする。

2 事業成果の概要

【活動支援体制】

運営：文京ラグビースクール事務局（理事会）

全11名 - 理事長、副理事長2名、理事8名

指導：筑波大学附属高校 OB、小石川高校 OB、

東京大学 OB、日本 IBM OB、保護者他

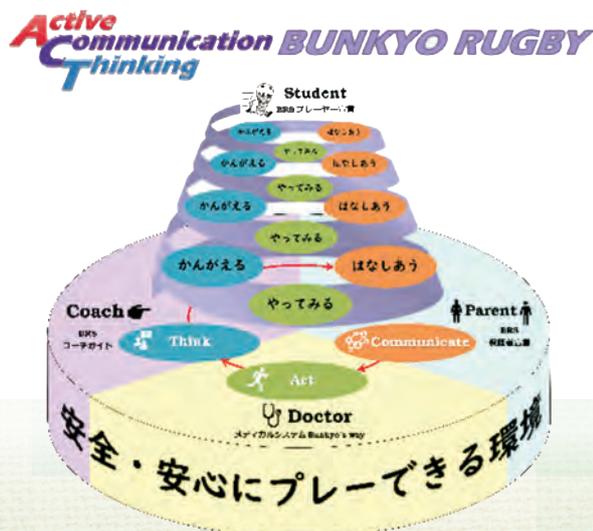
【生徒在籍者数】

男子203名 女子22名

幼児34名 小学生169名 中学生22名

2023年度はまだコロナの影響も残っていたが、全105回の練習にのべ6415名が参加した。

昨年3月には設立10年を迎え、フラッグシップとなるスクールとなるべく、新たな基本方針を策定した。概念図および基本方針を以下に示す。



文京ラグビースクール基本方針(案)

～文京ラグビースクールが目指すもの～

文京ラグビースクールでは、ラグビーというスポーツを、安全な環境のもと楽しくプレーすることを通して、次世代を担う子どもたちに、

目的意識を持ち、主体的に行動する力 (Active)

仲間と協力して、物事に取り組む力 (Communication)

いま何をすべきか、自分の頭で考え判断する力 (Thinking)

をつけることを目指します。

あきらめずにやりきる力

こえをだしてつながる力

とことんかんがえぬく力



同時に、スクール生、保護者、メディカルチームがそれぞれ「プレーヤーズ宣言」「保護者宣言」「メディカルシステム Bukyo's way」を発し、次の10年をよりよいものにしていくべく再スタートを切ったところである。

3 地方自治体等との連携

文京区ラグビー協会と連携して、文京区の小学生を対象とするタグラグビー大会や、幼稚園、小学校でのラグビー教室を計画した。

4 今後の展望

文京区で初めてのラグビースクールを開校したが、毎回200名前後の参加者を得て「ラグビーを通じたこどもの健全育成」の場を提供することができている。子ども達の成長に合わせ、練習内容の質を高めていくとともに、参加人数の拡大、練習環境の改善を図っていく。

5 その他

筑波大学ラグビー部との連携をより一層深め、合同練習会や筑波大学応援ツアーを企画していく予定である。



第13回つくばリサイタルシリーズ

【活動地域：茨城県つくば市】

人文・文化学群人文学類 畑 なつみ

1 事業の概要

筑波大学の有志学生からなるつくばリサイタルシリーズ実行委員会は、学生や市民が音楽芸術に気軽に触れ、観客と演奏家、実行委員が感動を通じて絆を深めることを目的とし、一流のアーティストをつくばに招いて行うコンサートの立案・企画・広報・運営を行っている。当委員会のコンサートでは学生無料、一般1,500円でクラシックになじみのない人々でも興味を持ち、一流に触れる機会を提供している。

2 事業成果の概要

2023年5月21日（日）につくばカピオホールにて第13回つくばリサイタルシリーズ「葵トリオ3人で奏でるシンフォニー」を開催した。ミュンヘン国際音楽コンクールで2018年にピアノ三重奏部門日本人初優勝した葵トリオが、2023年に生誕150周年を迎えたラフマニノフの悲しみの三重奏曲第2番を中心にアンコールを含めて4曲を演奏した。特に広報活動に力を入れ、ポスター・チラシをデザインし近隣の小中高校や音楽教室へ配布したり、ラジオの出演や各種新聞の取材を受けたり、さらにブログの宣伝や最新情報の配信のためにSNSを活用した。その結果オンラインで販売していたチケットは一般・学生ともに売り切れ、クラウドファンディングも目標額を達成することができた。また終演後に行ったアンケートでは、コンサートの全体満足度（満足、やや満足）が95%を超えた。



コンサート中のステージ



葵トリオと実行委員



演奏後の葵トリオ

3 地方自治体等との連携

つくば市とつくば市教育委員会から後援をいただいた。さらにコンサートにはつくば市の五十嵐市長にご来場いただいた。また、つくばみらい市、土浦市、守谷市などの周辺自治体に依頼し、チラシを図書館やコミュニティセンターなどに設置した。

4 今後の展望

つくばカピオを利用した大規模のコンサートだけでなく、サロンシリーズと題して80人ほどの観客で濃密な音楽体験を提供するプロジェクトも行うなど、幅広く活動している。さらに年々委員会の規模も拡大し、リピーターも増えている。より多くの方にクラシック音楽を身近に感じてもらうため多種多様な広報を行い、魅力的なコンサートを作っていきたいと考えている。

第13回つくばリサイタルシリーズ

葵トリオ

—3人で奏でるシンフォニー—

Piano:
Kosuke Akimoto

Violin:
Kyoko Ogawa

Cello:
Yu Ito

【Program】
ベートーヴェン：
ピアノ三重奏曲第3番 短調 op. 1-3
江藤光紀：新作
ラフマニノフ：
ピアノ三重奏曲第2番 短調 op. 9
「悲しみの三重奏」

【チケット申込み方法】
・専用フォーム"teket"
（ホステード右のQRコードまたはQRコードから）
・窓口販売
（つくばカピオまたはノバホール事務室にて）
・郵送申込み
（切手を貼った返信用封筒を同封し、2023年5月31日までに返封先までお送りください。
郵送先：チケット申込センター 〒305-8577 つくば市中央1-1-1 筑波大学人文社会学部 1階 音楽研究室）

2023年 5/21 (日) つくばカピオホール
14:00 開演 (13:30 開場) 一般：1,500円 学生：無料(要申込)

お問い合わせ：
tsukuba@tsukuba.ac.jp
〒305-8577 つくば市中央1-1-1 筑波大学人文社会学部 1階 音楽研究室

お問い合わせ：
teket@tsukuba.ac.jp
〒305-8577 つくば市中央1-1-1 筑波大学人文社会学部 1階 音楽研究室

第13回つくばリサイタルシリーズ ポスター

「いもりの里」をモデル拠点とした谷津田・里山の復元・維持管理ネットワークの継続的発展 2023

【活動地域：茨城県取手市】

生命環境系 助教 丸尾 文昭

1 事業の概要

「いもりの里」では、関東平野の典型的な荒廃した谷津田・里山（取手市の耕作放棄地）を舞台に、地域住民と行政、学術サイドが協働して農村・都市一体型の維持管理ネットワークの構築に成功し、イモリ（絶滅が心配される水生動物）も棲める上質の自然環境を復元しながら、生命環境教育・農業体験・地域産業振興活動などの総合プログラムを実践している。本事業では「いもりの里」（地域の宝／サンクチュアリ）をモデル拠点として活用・維持しながら周辺地域への拡充計画策定や周辺小学校での科学体験学習を支援する。



図. 田植えの時にイモリを見つけた！

2 事業成果の概要

これまでの活動を通じ、地域住民サイドからは「いもりの里」の継続活用と維持継承を望む声が、行政サイドからは類似の事業展開を探る声が強いことが分かった。そこで「いもりの里」をモデル拠点として本格的に活用・維持しながら、科学学習支援や周辺地域への拡充計画策定支援・提言を継続的に実践している。

田植え・稲刈り・収穫祭等のイベントや生命環境関連の総合学習プログラムを、いもりの里協議会が中心となって、行政や地域住民などの協力も得ながら、年間9回開催した。

表. 令和5年度 いもりの里年間行事

開催日程	内容	参加人数
5/14 (日)	取手いもりの里 谷津田・里山体験 どろんこ田んぼ運動会、田んぼの生き物観察	雨天中止
5/21 (日)	取手いもりの里 谷津田・里山体験 田植え、田んぼの生き物観察	15名
6/18 (日)	取手いもりの里 生き物観察会 土壌生物観察、いもり観察	16名
8/6 (日)	取手いもりの里 星空の下の科学教室（日没後実施） 講演会、灯火観察	25名
9/17 (日)	取手いもりの里 谷津田・里山体験 稲刈り、いもり観察	35名
10/22 (日)	取手いもりの里 谷津田・里山体験 芋掘り（主催：貝塚・上高井地区農村環境活用推進協議会）	50名
11/19 (日)	取手いもりの里 谷津田・里山体験 秋のデイキャンプ	8名
12/17 (日)	取手いもりの里 谷津田・里山体験 里山整備	7名
2/18 (日)	イモリ学習会（筑波大学） 再生の不思議、イモリの卵や幼生観察、イモリ幼生の飼育法	28名
3/17 (日)	取手いもりの里 谷津田・里山体験 春のデイキャンプ	16名

3 地方自治体等との連携

取手市役所まちづくり振興部を中心に「いもりの里」の候補地選定時以来17年にわたり支援をいただいている。取手市から地元（いもりの里協議会）への公募補助金が継続的に採択されているほか、イベント運営スタッフへの市役所職員の方々の参加、有害外来生物（アライグマ）の駆除など、地域住民との3者間で連携した円滑な協力体制が確立している。

4 今後の展望

小学校児童を中心に家庭でのイモリ幼生飼育体験プログラムも10年来に渡り提供しており、卵から成体イモリまで立派に育て上げて、いもりの里に放流するまでになっている。放流したイモリが「いもりの里」で成長している様子もたびたび確認されていたが、2022年以降、成体メスが受精卵を産卵することが繰り返し確認できるようになった。今後はイモリネットワーク・ジュニアとして拡充し、「いもりの里」を生命環境教育の拠点としてもさらに発展させていく。また、世界で唯一のアカハライモリ・ストックセンターとしての役割（Nature Protocols 6:593-599, 600-608, 2011ほかに記載）も益々重要になってくると思われる。イモリ野外生態観察場で実施してきた追跡調査の知見を生かし、繁殖環境の整備にも力を入れている。

5 その他

ポートフォリオはイモリネットワーク (Japan Newt Research Community) の Web ページに随時掲載 <http://imori-net.org/>

『難病とたたかう子どもたちに自然体験を！ 2023』 ～新感覚のオンライン院内学級の導入～

【活動地域：茨城県つくば市】

医学医療系 講師 松原 宗明

1 事業の内容

【社会的背景と目的】

難病と闘う子ども達は、つらく長い闘病生活の中で自分自身ではコントロールしがたい体調や病状の変化により隔離された入院生活で身体的にも精神的にもストレスがより大きくかかっている。但しこういった自分の意のままになることが少ない入院生活でも、**勉強は自身を尊重する気持ちにつながるだけでなく生活のメリハリができ治療への意欲が保たれる**利点があるとされている。そこで長期入院中の難病とたたかう子ども達に、これらの問題を払拭し得る新しい教育事業として遠足や修学旅行のような感覚で**大自然をオンラインで感じられると共に学びながら休息やリフレッシュする**機会を提供可能なオンライン院内学級を企画した。

【方法】

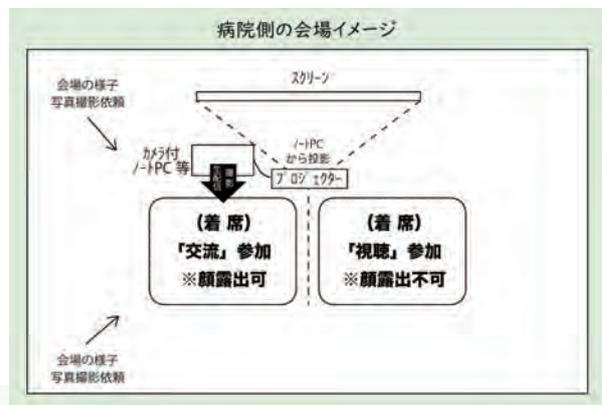
北海道で医療ケア付きキャンプ場として活動中の公益財団法人”そらぶちキッズキャンプ”の共催のもと、**Wifi環境が整備された現地とオンライン上で県内4つの医療施設で院内学級を同時開催**する企画を冬に催した。講義内容に関しては、院内学級教官と現地スタッフで複数回事前協議を行い、**四季を感じながら自然や野生植物・生物を学べる**課外授業の一環となるプログラムの提供を目指した。現地スタッフには教員免許取得者もいるため、より専門的な学習も可能で仮想林間学校を見据えた内容とした。



2 事業の成果

【段階的な授業】

- ★**事前学習**…北海道の森にある様々な樹の葉っぱの形などをキャンプ場から各院内学級に郵送し、届いた自然物をジップロックやラミネートにいれ、デジタル顕微鏡で観察し自然疑似体験すると共に、植物や生物の知識や情報を学んだ。
- ★**Online 自然体験授業**…各院内学級とキャンプ場をオンライン接続し、「LIVE → 録画視聴 → LIVE」の構成で、事前学習した葉や植物を含めた机上で味わえない自然体験学習を、質疑応答を交えながら行った。また入院中の子ども達の体調に合わせ、欠席者には事後ビデオ視聴も可能とした。
- ★**事後学習**…Online 自然体験授業で現地キャンプ場より出題された問いかけを考えると共に自然体験で得た知識を再復習した。



【活動結果（学習効果）】

世間から取り残されたような疎外感を感じやすい闘病中の子ども達にとって、遠足や修学旅行のような感

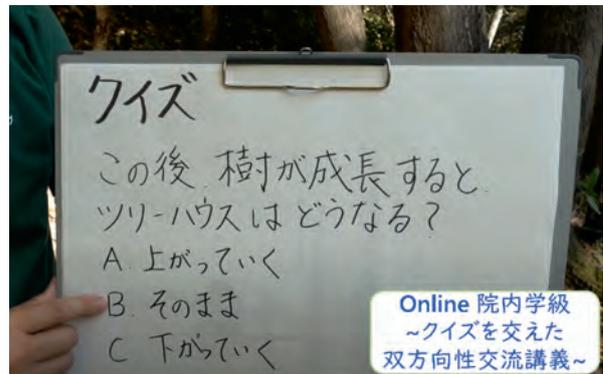
覚で大自然をオンタイムで感じられるオンライン院内学級は非常に貴重な機会となり、これからの新しい感覚の院内学級の試みとも言えた。大自然を感じることで「自分が生きていても良い」という大きな自己肯定感を作ることに繋がり、前向きに生きることや、「通っていた学校へ早期復帰したい」というモチベーションになり生きる望みにつながる**ことが本事業後の子ども達からの感想から示唆された。**また病氣と闘う子ども達だからこそ分かち合える絆や交流、思い出を体験出来たことで、『病氣を抱えながら院内学級を通じて日常生活に順応するための意識改革』や『心を豊潤にする情操教育の大事さ』なども併行して認識することが出来た。また事前にインターネット環境を含めた動画配信機材を準備出来たことで、有効な双方向性交流が行えた。一方で事前・事後学習を含めたオンライン院内学級の狙いの設定が今後必要と思われる、参加者が今後増えれば年齢や病態にあわせたカテゴリー別の開催も検討課題にあがった。



Online 院内学級(葉の勉強)

Online 院内学級
(鳥の声の勉強)

メスを呼ぶ時の声らしいです。

Online 院内学級
(ツリーハウス体験)Online 院内学級
~クイズを交えた
双方向性交流講義~

3 地方自治体等との連携

子ども達への指導・教育活動は、今回院内学級及びキャンプ場スタッフなどのボランティア中心の活動で行うことで、講義中の子ども達の有事の際の迅速な対応や、最大限の経費削減に努めてつなげたが、双方向性のオンラインコミュニケーション活動を至適に行い、更なる利便性向上のためには、今後様々な地方自治体との連携支援強化が重要であると考えられた。

4 今後の展望

本企画を通じて、入院や治療などで空間的にも心理的にも閉鎖的、抑圧的な状況に置かれやすい病氣療養児の心理的な安定を図ることができ、感染の危険が無い中でも『自己を確立することを学び、仲間と触れ合い、自分の居場所を確保する』ことに繋がる新しい学習環境を提供しえた。今後は参加者患児を県内医療施設のみならず国内他施設での同時開催を念頭に置き発展的展開を進めたい。また学校は勉強するだけでなく、仲間とつながる場でもあるため、単なる座学的な授業の配信のみならず、オンライン課外活動にも繋がり得る本企画は、難病と闘いながらも病院内で患児の成長に繋がる事が可能な、一段上のオンラインシステムとして、今後はその構築発展を念頭に置いて活動を開いていきたい。

『つくばキッズメディカルユニバーシティ 2023』 ～少年期の子ども対象の医療現場体験ツアー～

【活動地域：茨城県つくば市】

附属病院 看護師 岩見 幸枝

1 事業の概要

小学校高学年の子どもたちを対象とした講義を受けながら医療に関わる様々な最先端領域を実体験できる『キッズメディカルユニバーシティ』を夏休み期間中の2日間で開催した。

- 1) 宇宙医学：フライトサーजनによる講演や仮想宇宙体験
- 2) 救急看護：フライトナースによるドクターヘリに関する講義及び体験学習
- 3) 栄養：病院食を食べながらの栄養士からの食育学習
- 4) パラスポーツ：パラリンピアンと一緒に車いすバスケットボールの体験と障がいに対する講義学習
- 5) 災害医療：体感型防災アトラクションの体験活動を通じて災害医療について実習
- 6) 薬学：薬を作成し溶解性と薬形の関係を学ぶ実験
- 7) 看護：看護師と共に採血・バイタルサイン測定・手洗いの実習
- 8) 救急医療：救急医・医学生と共に心肺蘇生体験
- 9) 外科：心臓外科医と共に豚の心臓を用いた模擬心臓手術や最先端の医療技術体験



2 事業成果の概要

大学の知的財産をフルに活用する事で対象者である小学生が実際の医療現場の模擬体験から『身体のしくみや命の大切さ・人への思いやり』を熟考できた。同時に多様な感覚・期待をもつ子供達に『未来の医療人を目指すためのプロローグ』の場を提供し得た。



3 地方自治体との連携

近隣地域（水戸市・神栖市・鹿嶋市）3市の教育委員会を通じ本企画のチラシを事前配布したところ定員（各回30人の2回開催）を大幅に上回る応募があった。



4 今後の展望

参加者のアンケート結果を詳細に分析し、従来の単純な教育普及活動の一環のものとは異なった医科学技術リテラシー涵養活動の体系化やアフォードランス効果・新たな学習プログラムの開発に還元させていきたい。



5 その他

企画内容はNHKで放送された他、各種SNSや読売新聞に掲載された。



Tsukuba Kids Medical University

つくばキッズ メディカルユニバーシティ

第1回 **7月28日** 金
2023 9:00～17:30

プログラム

宇宙医学セミナー
救急看護セミナー
食育セミナー
パラスポーツセミナー
災害医療セミナー

第2回 **8月18日** 金
2023 9:00～17:30

プログラム

薬剤セミナー
看護セミナー
食育セミナー
救急医療セミナー
外科セミナー



会場：筑波大学附属病院 (つくば市天久保2-1-1)

募集人数：各回30名

対象：水戸市、鹿嶋市、神栖市の
いずれかに在住の小学校5・6年生

参加費：無料

持ち物：筆記用具、水筒、マスク

※当日は動きやすい服装をお願いします。 ※送迎はご家族の方をお願いします。

●応募方法

当院Webサイト(<https://www.hosp.tsukuba.ac.jp>)の
応募フォームからお申し込みください。

応募は6/30(金)締切とさせていただきます。参加者は厳選なる
抽選により7/7(金)までに当選者へご連絡します。

但し、参加者は各小学校1校につき最大2名までとさせて
頂きます。

 **筑波大学附属病院**
University of Tsukuba Hospital

茨城県脳卒中・心臓病等総合支援センター プロジェクト
令和5年度 筑波大学 社会貢献(地域貢献) プロジェクト

不登校児のための地域連携型支援事業 「ココ・カラ基地」プロジェクト

【活動地域：茨城県つくば市】

体育系 准教授 澤江 幸則

1 事業の概要

不登校児童生徒の数が増えるなか、その子どもたちの学びの場とともに、子どもたちの可能性を広げることが現代的課題である。私たちは、昨年度の取組成果を検証すべく、教員と学生が力を合わせながら地域に根ざした体育・食育活動、単発イベントを実施した。

2 事業成果の概要

「自分のペースで運動したい、体育授業のイメージをぶっこわしたい、笑顔でいっぱいになりたい」をモットーに取り組んだ体育活動（らくスポ）は、5月には「Gボールとトランポリン」、7月には「ビームライフル」、10月には「バレーボールと卓球」、2月には「はじめての自転車教室」、3月には「自転車ツーリング」を行った。また「偏食？アレルギー？食べられないものがたくさんあっても大丈夫！みんなが美味しく食べられるものを一緒に探していきます！」をモットーに取り組んだ食育活動（らくっく）は、6月に「おにぎらず・お味噌汁」、8月に「ドーナツとシャーベット」などを行った。また単発イベントとして、9月に「夏イベント2023」を実施したり、不登校・多様な学びネットワーク茨城主催の第2回不登校・多様な学びつながる“縁”日に参加しブースを出店した。



写真1：不登校・多様な学び つながる“縁”日の様子

1) 活動実施に向けた事前準備

本活動は単に、不登校児の学びの場を提供するだけでなく、それに伴って地域の人々の理解を得ながら、力をあわせて活動することを心がけた。

例えば、ビームライフル活動では、実施数ヶ月前に、茨城県ライフル射撃協会関係者にコンタクトさせてい

ただき、説明スライドや配布資料をもとに、不登校児の実態とその可能性について理解をしていただくように努めた。その甲斐もあってか、当日は写真にあるように、協会の方が多くかけつけていただき、直接子どもたちにやさしく指導してくれた。



写真2：ビームライフル活動の様子

2) ぱちインターンプログラムの導入

これまで私どもは、不登校児の興味をもとに活動内容を提供してきた。しかし今年度は、その子どもたちの可能性を広げるため、キャリア教育の視点から、インターンプログラムを導入した。

具体的にはフリースクールに通っている高校生を、親御さんとフリースクール代表の方の許可を得てインターンとして企画・運営の一端を担ってもらった。その結果、子ども視点の素晴らしいアイデアを提供するだけでなく、本人自身、以前に比べ責任ある行動が増えるようになったと周りから評価されるようになった。



写真3：インターン生が企画した自転車教室活動の様子

3 地方自治体等との連携

今年度は、つくば市とも意見交換をさせていただく機会を頂いたり、上述したように地域のスポーツ資源と事前交渉したり、不登校・多様な学びネットワーク茨城さんのイベントに参加するなどして、地域に根ざした活動を行うことができた。

発達・精神・身体障害のある高校生に対する 大学進学サポートプログラム

【活動地域：茨城県つくば市】

人間系 准教授 佐々木 銀河

1 事業の概要

障害のある高校生に大学進学イメージを持ってもらうため、大学生1日体験講座を開催しました。年2回、夏は発達障害のある高校生に限定してオンラインで、春には障害種を問わず対面で実施しました。様々な障害のある高校生や保護者の方が参加しました。

2 事業成果の概要

【発達障害のある高校生対象オンライン講座（夏）】

「じぶんハッタツラボ」は、バーチャル会議室「Remo（レモ）」によるオンラインで実施しました。2023年8月20日に開催し、高校生10名、保護者7名の17名が参加しました。[担当：佐々木銀河]

【障害種を問わない対面での講座（春）】

今年度初めて企画をした「Transition Day—あなたの大学生活をデザインしよう—」（障害のある高校生向け大学生1日体験講座）は、2024年2月10日に対面で実施しました。対象は大学進学を志望する高校生であり、障害種は指定せず、聴覚障害や視覚障害、発達障害、肢体不自由のある高校生10名（欠席2名）と保護者9名の計17名にご参加いただきました。

大きく分けて4つのプログラムから構成しました。①「わたしの大学生活をデザインするために—大学での合理的配慮について—」では、ヒューマンエンパワーメント推進局の舩越高樹准教授による大学における合理的配慮に関する模擬授業が行われました。また、参加した高校生たちは、本学において提供されるノートテイクなどの合理的配慮を体験しました。高校生からは『合理的配慮を使うと、周りからずるいと思われるのかもという意識があったけれど、それは自分の障壁を取り除くためにあるから、なんの問題もないということに気づけた』といった感想が得られました。②「わたしの大学生活をデザインする—先輩に聞いてみよう—」（座談会）では、2名の障害学生の大学生活の発表と参加した高校生と企画の補助を行う筑波大生（大学生メンター）による座談会が行われました。高校生からは、『メンターの方々がとても明るく、沢山

話しかけてくださったので楽しめた。』といった感想が得られました。③「わたしのお昼ご飯をデザインする」では、実際に筑波大学の第二食堂にて、昼食をとりました。④「一人暮らしをデザインする」では、はじめに、実際に一人暮らしをしている障害学生の体験談を聞き、大学生生活の生活場面について具体的なイメージを膨らませました。次に、一人暮らしをするうえで活用できる福祉サービスの概要を知りました。最後に、実際に一の矢宿舎にあるバリアフリー改修が行われた居室を見学しました。高校生からは『大学内での移動の大変さと、先輩方の一人暮らしの様子を知る事が出来た』、保護者からは、『今でもいろんな福祉サービスを利用していますが、1人暮らししているリアルな学生からの体験を聞けてとてもためになりました。』といった感想が得られました。

全体を通して、高校生から『このイベントがとてもためになったため、もっとたくさんの方々に広めてほしいです。開催していただいてありがとうございました。』という感想が得られました。[担当：山森一希]



先輩障害学生の発表の様子

3 地方自治体等との連携

大学生1日体験講座は茨城県教育委員会・つくば市の後援を得ました。

4 今後の展望

持続的な開催に向けて予算確保の検討が必要です。

救急隊を対象とした新たな病院前周産期救急教育の推進

【活動地域：茨城県つくば市】

医学医療系 准教授 宮園 弥生

1 事業の概要

新生児の出生に関わる全ての職種において、新生児蘇生法教育の習得は非常に重要である。新生児蘇生法講習会は、従来は医師・助産師を主な対象としていたが、自宅など医療機関以外で出生した新生児に関わる救急隊を対象とした病院前新生児蘇生法プレホスピタルコース（Pコース）が令和2年に新たに設立された。本事業の目的は、1）Pコースを県内外の救急隊に普及させていくこと、2）新生児蘇生のみでなく、救急隊対象の分娩対応講習会を開催することで、病院前周産期救急全体のレベルが向上することを旨とするものである。

2 事業成果の概要

2023年度は新生児蘇生法Pコースを1回、Pコース取得者を対象に分娩対応講習会を1回開催した。

1) 新生児蘇生法 P コース

- ①講義：オンラインによるオンデマンド学習
- ②プレテスト
- ③実技：ルーチンケア、蘇生の初期処置、酸素投与、人工呼吸、胸骨圧迫、モニター装着など
- ④シナリオ演習：3人1チームでの新生児蘇生演習
- ⑤ポストテスト

オプション：分娩介助デモンストレーション

2) 分娩対応講習会

- ①講義・質疑応答
- ②分娩介助の基本技術演習
- ③シミュレーション
- ④まとめ

今回は長年、長野県内で救急隊対象の分娩対応講習会を開催してきた佐久大学および清泉女学院大学で助産学を専門とする講師2名を招き、Pコースライセンス取得者の救急隊員を対象に開催した。

3) 受講者からのアンケート結果

- いずれの講習会も非常に好評で、一部を紹介する。
- ・普段から経験することが少ない現場なので、シミュレーションすることで活動の大変さ、難しさ

を再確認することができた。今後も定期的に受講したい。

- ・分娩の流れがわかったことで新生児蘇生のイメージも更に深まった。
 - ・基礎的な部分から応用と救急隊が不安なところを教えて頂き現場で活かせる内容だった。本日の内容を復習し、所属分署へフィードバックしたい。
 - ・いざ今回のような状況になった時に私たちはどんな活動ができるのか、何が足りないのかを把握でき、新たに学ぶことがたくさんあった
- 4) 実習風景：シミュレータを使用した実技演習
 <新生児蘇生法 P コース> <分娩対応講習会>



3 地方自治体等との連携

今回の講習会企画にあたり、日本周産期新生児医学会の新生児蘇生法講習会情報用のホームページに掲載するとともに、茨城県内の全市町村が管轄する消防本部に募集をかけ、開催の周知を行った。

4 今後の展望

2023年12月に消防庁から「分娩施設外での新生児仮死に対して救急隊員などが蘇生を行う場合、新生児蘇生法の適応は妨げられない」と正式な通知が出たこともあり、今後、Pコースの需要は急速に高まることが予測される。本講習会は同時に救急救命士のインストラクター養成も兼ねており、今後、救急隊員自身を中心とする新生児蘇生法講習会開催により、受講機会が更に増えることが期待される。

糖尿病の口腔管理についての情報発信を目的とした教育啓発活動

【活動地域：茨城県他 日本全国】

医学医療系 助教 工藤 理恵

1 事業の概要

歯周病は糖尿病の合併症の一つであり予防が必要であるが、認知度は低く、患者、医療従事者への疾患教育は十分とは言い難い。また医療機関と歯科の連携もスムーズには行われていない。そこで筑波大学を糖尿病の口腔管理教育の拠点として、最新の糖尿病の口腔管理についての情報発信を目的とし、看護師や歯科衛生士を対象とした研修会を開催した。

トでは多くの受講者が研修会は糖尿病の口腔管理の実践に役立つものであり、実践への意欲が高まったと回答した。今後も情報発信を継続するとともに、関心を持つ医療従事者同士のサポートネットワークを構築し課題解決する道筋を作る。



看護師を対象とした研修会の様子

2 事業成果の概要

2023年度は看護師を対象とした研修会を1回(2023/9/23)開催した他、茨城県歯科衛生士会研修会(2023/7/2)で講演をした。県内外から看護師26名、歯科衛生士98名が受講し、受講後アンケート

女性若年性認知症への支援体制の構築

【活動地域：茨城県つくば市】

医学医療系 講師 石井 亜紀子

1 事業の概要

若年性認知症の有病率は18～64歳人口10万人当たり50.9人、総数は3.57万人と推計されている。若年性認知症は高齢者認知症と異なり、その年代に合わせた社会支援が重要であるが、そのための社会政策や社会資源は不十分である。特に、女性においては、ネグレクト、家庭内暴力、医療機関への受診の遅れなどの問題が指摘されている。本プロジェクトは、アンケートにより女性の若年性認知症の特徴や必要な社会資源を抽出し、今後の早期発見、早期診断・治療介入、ひいては本人のニーズに合わせた就労・経済・社会参加などを実現することを目的とする。

2 事業成果の概要

若年性認知症における女性の特徴を明らかにするためのアンケートの作成を行うための聞き取り調査：早期発見・診断に結び付けられる特徴を抽出するため、女性若年性認知症患者5人の初発症状や更年期との関連などの詳細な病歴を聴取した。その結果、車のシートベルトの着脱困難や時間がかかるという症状に家族が気づくことが多く認められたため、同年代の女性の平均シートベルト着用時間の測定を計画し、簡易チェックシートの作成を行っていく予定である。

Tsukuba for 3.11

【活動地域：茨城県つくば市】

医学群医療科学類 青木 芽生

1 事業の概要

事業の概要は大きく分けて2つに分かれる。1つは団体メンバーで毎回様々な非常食を開封、調理、試食まで行い、その商品についてレビューすることである。もう1つは、「非常食を食べる会」を実施して筑波大生を集め、より多くの人に非常食を食べてもらい、備蓄してもらうきっかけづくりをすることである。

2 事業成果の概要

まず1つ目の事業について述べる。我々は毎週のMTGで非常食を開封、調理（水を加える等の簡単なもの）、試食を通して、非常食に対する自らのイメージを築いた。「水が必要か否か」「冷たいままでもおいしく食べることができるか」「どの世代にも受け入れられるか」のような、非常食において大切な観点を話し合い、記録していった。各々お気に入りの商品を見つけ、家族や友人に勧めているようである。また、これらの記録を当団体のSNS（Instagram、X）やHPに順次投稿していく予定だが、全て掲載しきれていないのが現状であるため、年度中に完了させたい。Xのフォロワーが多い（1751人）ため、より多くの人に見て頂けることが予想される。

次に2つ目の事業について述べる。たくさんの筑波大生に非常食を試してもらう前段階として、当団体メンバーの知り合いを招いて、「非常食を食べる会～知り合い編～」を2回開催した。温かい状態でも食べるために、防災グッズ「湯沸かしBOX」も用いた。参加者の方々と共に、各非常食について正直な意見を出し合いながら調理、食事を楽しんだ。実施後のアンケートでは、全ての参加者から「非常食のイメージがかわった」とご回答頂き、中には実際に備えたいと思う商品にも出会えたようだった。非常食に触れ、考えてもらういい機会を提供できたと考える。今後はもっと規模を大きくして実施したい。



非常食を食べる会～知人編～

非常食の例
(後方で湯沸かしBOX使用中)

3 地方自治体等との連携

令和6年3月4日（月）ラジオつくば「つくば You've got 84.2」内コーナー「つくば市民活動NOW」に、東日本大震災からまもなく13年ということで出演させて頂き、当団体の活動の宣伝、おすすめの非常食の紹介等をした。Xでの反応も見られ、学生を越えて一般市民にも非常食について届いた機会だった。

4 今後の展望

来年度も引き続き、筑波大生を主な対象として非常食や防災グッズの紹介活動を行いたい。知り合いのみではなく、不特定多数の筑波大生に集まってもらえるよう企画したい。そして、ひとりひとりが防災について少しでも意識した生活環境を整えるきっかけを提供し続けたい。

放射線災害時に対応できるマルチタレントの育成

【活動地域：茨城県】

医学医療系 教授 磯辺 智範

1 事業の概要

放射線災害には、災害発生時の「あらゆる被ばく・汚染を伴う傷病者」に対する緊急被ばく医療から、復興期の継続的な放射線に対する健康管理まで、各災害時相に対応する人材が必要となる。本プログラムは、放射線災害の全時相において専門の知識と技術をもって広く活躍できるスタッフ、専門知識を持たない者に対して、トレーナーとして指導的立場で活躍できるスタッフの養成を目的とする。本プログラムはeラーニング80時間、実習40時間の計120時間で構成されている。

2 事業成果の概要

令和5年度を受講生の受入実績は9名であった。本プログラムでは、社会人が学習しやすい環境を整備し

ており、eラーニングやzoomによるオンラインにて講義や実習を実施した。令和5年度の修了生は8名であり、学校教育法第105条の規定に基づき、修了生には履修証明書を交付した。

2023年度_課題解決型放射線災害演習

基礎講習	放射線測定器の取扱い（講義） 医療活動に必要な放射線測定（実習）	9月20日（水）～ manabaで公開
統計解析演習	Excelを用いた統計解析（演習） EZRを用いた統計解析（実習）	10月14日（土） 13:00～ zoomにて実施
避難退域時検査	検査・医療中継拠点（講義） 体表面汚染（実習）、検査会場と 医療中継拠点の設置（机上演習）	11月18日（土） 13:00～ zoomにて実施
原子力災害 机上演習	机上演習ケーススタディー（実習）、 特別講演	12月16日（土） 13:00～ zoomにて実施
ホールボディ カウンター	概要（講義）、トランスファー ファントムの測定・解析（実習）	1月21日（日） 13:00～ zoomにて実施
養生・クイック サーベイ	放射線災害における対応（講義） 汚染患者受け入れ訓練（実習）	2月10日（土） 13:00～ 対面 or zoom *状況により変更



視覚障害乳幼児とその保護者を対象とするオンライン教育相談体制の構築

【活動地域：東京都文京区】

附属視覚特別支援学校 教諭 高橋 里子

1 事業の概要

視覚障害乳幼児の発達を促すためには早期からの専門的な支援が欠かせない。本校では、昨年度より本プロジェクトを推進し、対面とオンラインのハイブリッド形式による教育相談の環境を整備してきた。今年度はその環境を引き続き活用しながら、専門性の高い講師を招聘して保護者の相談ニーズに応えていくとともに、講師と現職教諭が教育相談・支援の場を共有する体制を組むことにより、視覚障害児の早期支援に関わる専門性の継承を図る。

2 事業成果の概要

(1) 教育相談活動

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、対面による相談希望者の割合が増え、相談総数延べ87件のうち7割を占めた。一方、オンライン相談は電話相談とほぼ同数で、それぞれ全体の約1割だった。遠方に居住する保護者や仕事を抱えて多忙な保護者がオンラインを利用しており、両親が自宅と会社から同時に教育相談に参加する等活用方法に広がりが見られた。

講師を招聘したグループ活動は、育児学級（0歳～2歳児とその保護者対象）を年9回、ミニ講座（0歳～就学前の乳幼児をもつ保護者対象）を年3回実施した。育児学級では本校幼稚部の元教諭を、ミニ講座では元教諭に加えて視覚障害児早期教育の分野で研究実績のある講師を招聘し、幼児教育の現場で実践を積んだ講師からの視点と研究者からの視点、それぞれから助言をいただく機会を保護者へ提供した。参加者数



ミニ講座 育児をともに考える

は（以下、いずれも延べ数）育児学級14家族（対面12、オンライン2）、ミニ講座14家族（対面11、オンライン3）だった。視覚障害児の育児について講師より助言や励ましを受けた保護者は、子ども達の育ちを前向きに受け止め、自信をもって育児へ向き合う姿が見られるようになった。また、回を重ねる中で保護者同士が育児の悩みを話し、共感し合う関係が構築され、相互に支え合う機会の提供にもつながった。

(2) 早期支援に関わる専門性の継承

近年、本校幼稚部では教員の新規採用が続いたため、早期教育相談に関わる専門性の継承が喫緊の課題であった。そこで、相談に必要な知識や姿勢を学ぶべく、現職教諭が講師と共に教育相談の場に臨む体制を組んだ。現職教諭側からは「子どもの発達についての知識、視覚障害の知識、視覚障害以外の障害の知識、相手に分かりやすく伝えられる表現力が必要である」「子どもを見る目を養いたい」等のコメントが寄せられた。併せて部内研修も実施し、相談に必要なスキルも共有した。



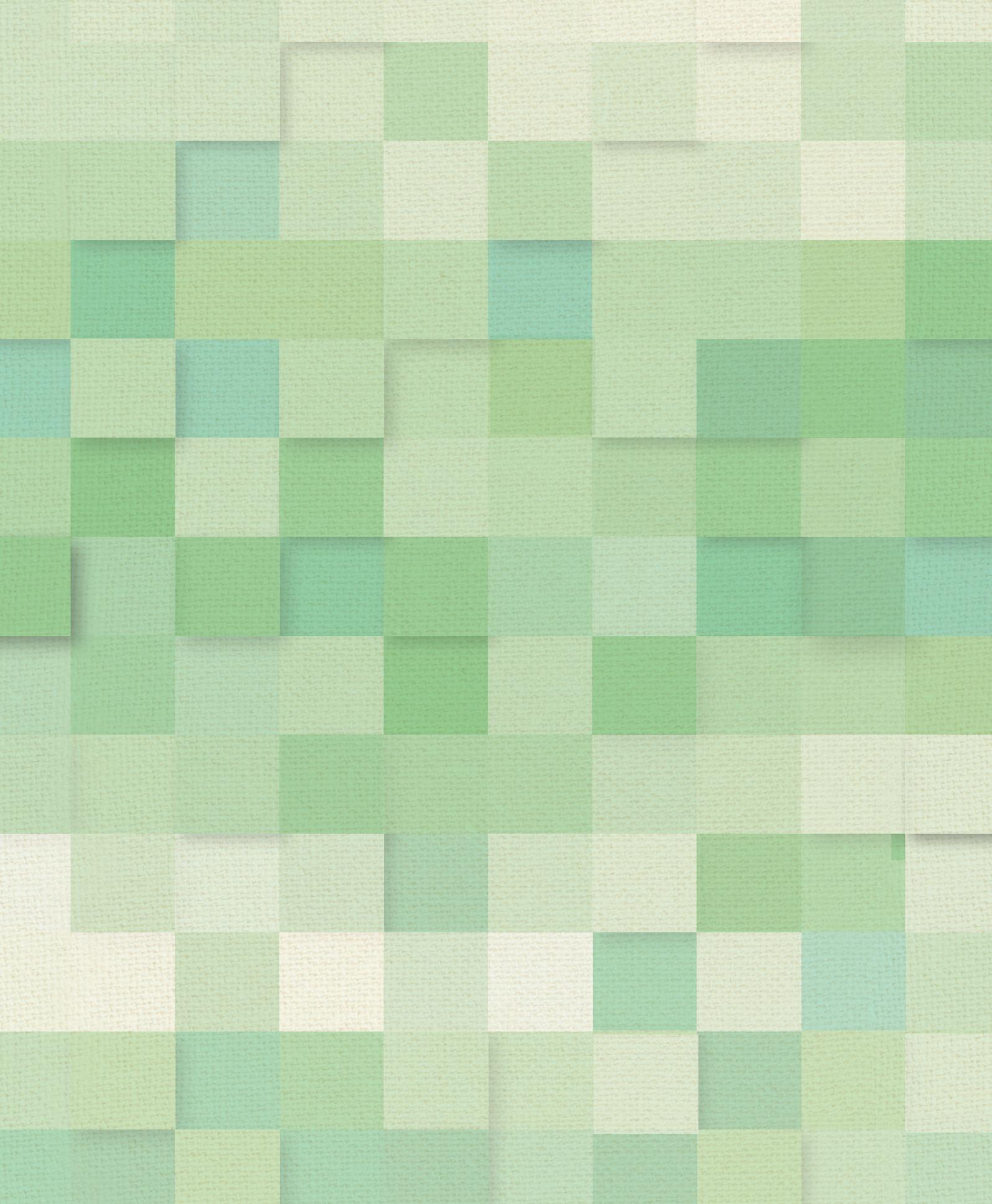
教育相談に関わる部内研修

3 地方自治体等との連携

本プロジェクトを受けて昨年度作成したリーフレットを引き続き活用し、教育相談活動の取組について周知を図った。幼稚部在籍児が通う幼稚園、保育所等への訪問支援の他、教育相談対象の乳幼児が通う地域の幼稚園、保育所等からも要請を受け、年間を通して延べ14件を訪問し、ニーズに応じた支援を行った。

筑波大学 社会貢献プロジェクト 2023-24

発行月 令和6年7月
発行元 筑波大学総務部総務課
〒305-8577
茨城県つくば市天王台 1-1-1
E-mail chiiki@un.tsukuba.ac.jp
URL : <https://scpj.tsukuba.ac.jp/>
印刷 いばらき印刷株式会社



筑波大学

University of Tsukuba